

C-49 福岡県における制服に関する調査（第三報）—同一親子の意見について
中村学園短大 ○石橋葉子 福女大家政 木村和子

目的 学生の制服に対する嗜好やイメージや満足度を知り、衣生活のなかにおける制服の役割を検討するために、1974年4月～5月にかけて調査を行なった。その結果を、1. 保護者の意見、2. 学生の意見にまとめて第26回総会で発表した。今回は同一ペアによる親子の意見についてまとめたので報告する。

方法、質問内容、調査時期、調査対象、調査方法は第一報と同じである。完全回答をペアで得られた親子の組は、中学388組、高校533組、短大261組、大学74組であった。整理は九州大学大型計算機センターFACOM 230-75を使用し、被調査者の客観的諸条件と嗜好との関係、制服のイメージ、現在の制服に対する満足度などを、親と子夫々について検討し、更に親と子一致した意見についても検討した。

結果 親と子の意見の一致したものは、中学で70.6%、高校85.7%、短大52.1%、大学60.8%で高校が一番高かった。制服のある学校では、制服のない学校に較べて希望するものが多く、特に短大、大学で著しい。性別による影響はみられなかった。各種別校を通じて制服を希望するものは親の方が子供に較べて多く、大都市より小都市に多くみられた。職業別では、農漁業のものに親子共制服を希望するものが多かった。